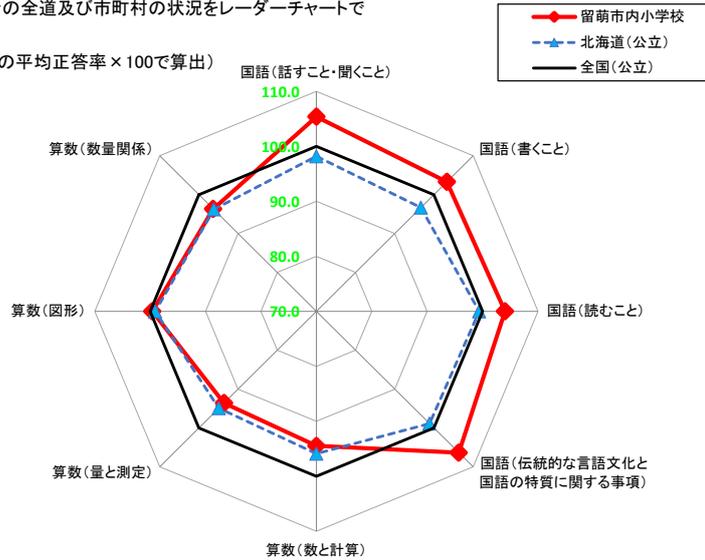


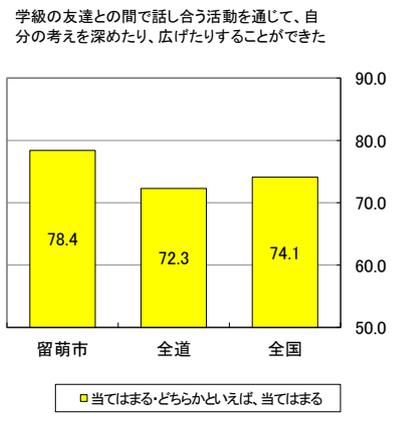
留萌市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、児童数:144人)

【教科全体の状況】

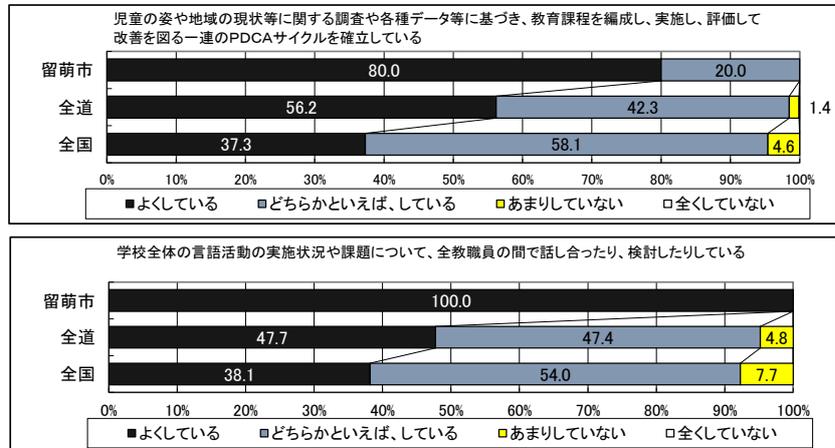
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」「数量関係」で全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において話し合う場面を設定し、児童同士が考えを深め合ったり、広げ合ったりする学習活動を工夫したことにより、思考力や表現力等が育成され、国語の全ての領域で全国を上回る成果につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校で、各種データ等に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、学校全体で言語活動の状況や課題について話し合い、組織的・継続的に改善を図ったことにより、質の高い教育活動の展開につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 全ての学校が、「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」と回答している。 	

【留萌市の学力向上策】

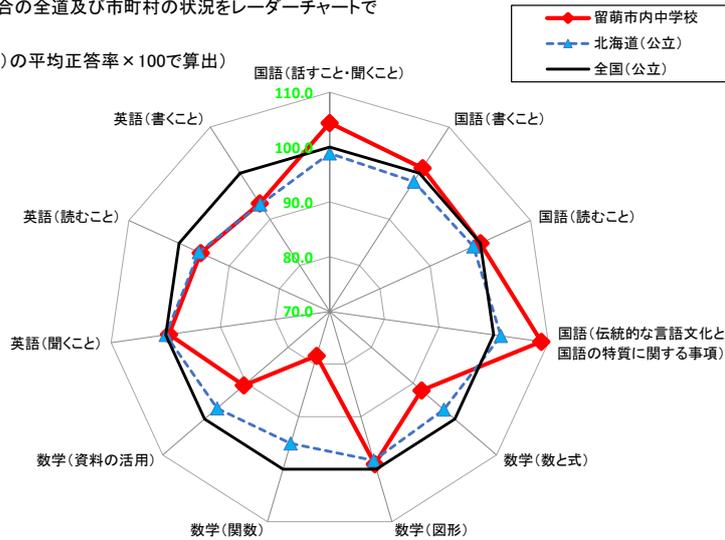
- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視した授業の充実
- ◎ 学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組の充実
- ◎ 各学校や研究団体における教職員の資質・能力の総合的な向上に向けた取組の支援

留萌市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:121人)

【教科全体の状況】

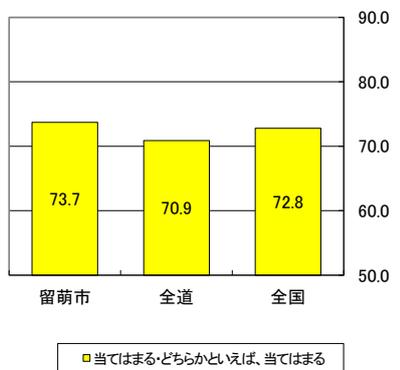
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



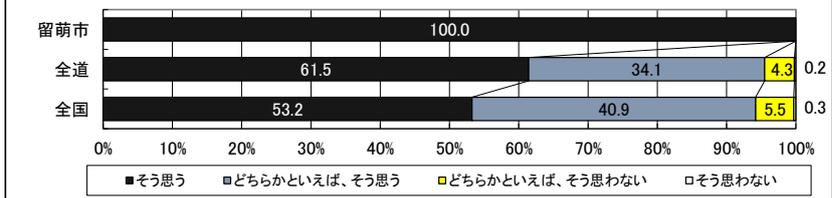
【生徒質問紙調査】

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた

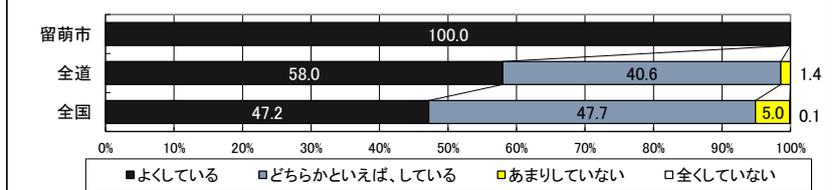


【学校質問紙調査】

生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている



教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学では、「図形」で全道を上回っている。 ○ 英語では、「書くこと」で全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において話し合う場面を設定し、生徒同士が考えを深め合ったり、広げ合ったりする学習活動を工夫したことにより、思考力や表現力等が育成され、国語の全ての領域で全国を上回る成果につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校で、学習規律の確立に向けた取組や教職員の指導力の向上に向けた研修を組織的、継続的に推進したことにより、授業において生徒の主体的・対話的な学びが充実するなど、授業改善につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、「生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている」と回答している。 ○ 全ての学校が、「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」と回答している。 	

【留萌市の学力向上策】

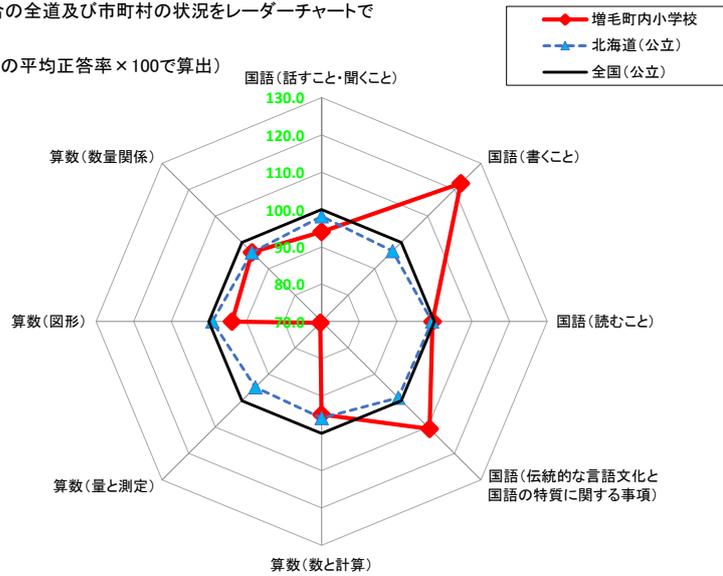
- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視した授業の充実
- ◎ 学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組の充実
- ◎ 各学校や研究団体における教職員の資質・能力の総合的な向上に向けた取組の支援

■増毛町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、児童数:25人)

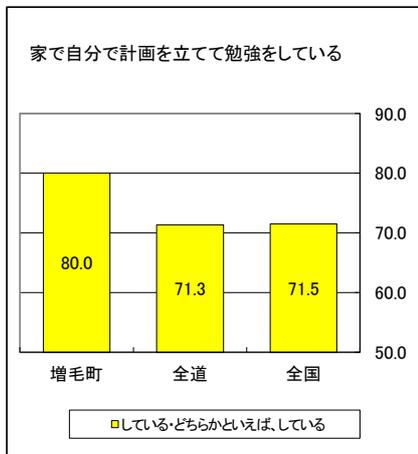
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

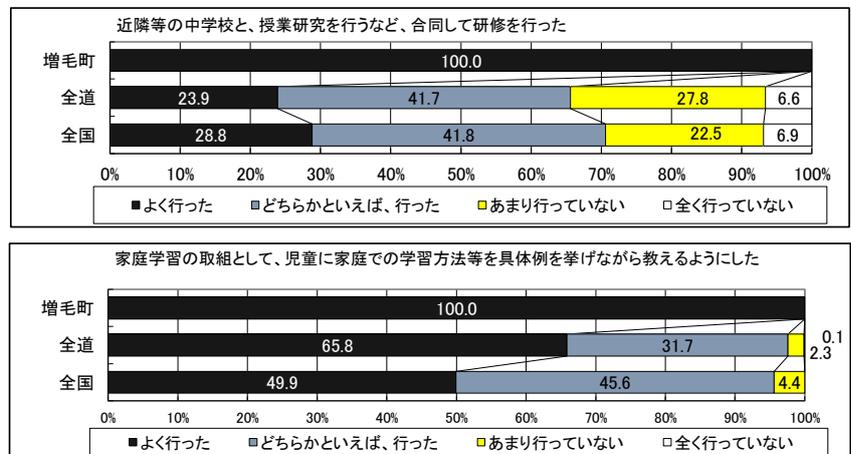
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「数量関係」で全道と同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習の手引き」等を活用して家庭学習の指導を充実したことにより、学習内容の定着が図られ、学力の向上につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修の充実はもとより、町内の中学校の教職員との合同研修をとおして学習内容の系統性を踏まえた指導の改善・充実を図ったことにより、教職員の指導力が育成され、授業改善につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした。 ○ 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。 	

【増毛町の学力向上策】

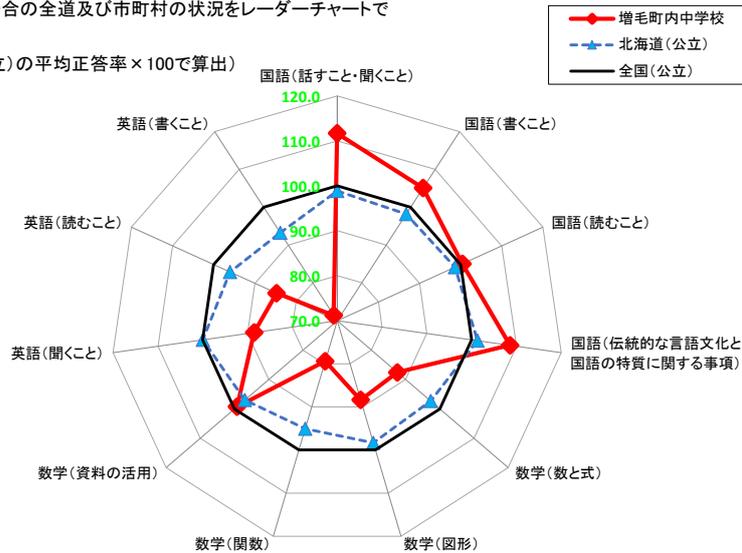
- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 「小中連携教育推進委員会」による9年間を見通した切れ目のない学校教育の充実
- ◎ 学習支援員による個別の学習支援の充実
- ◎ 保護者との協力による「家庭学習の手引き」等を活用した家庭における学習習慣の確立

■増毛町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:34人)

【教科全体の状況】

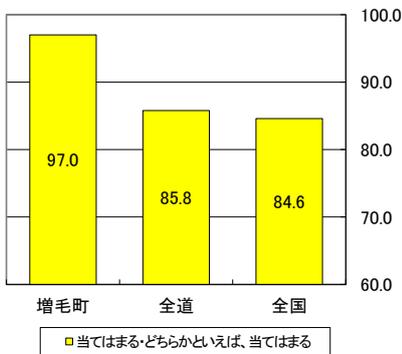
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



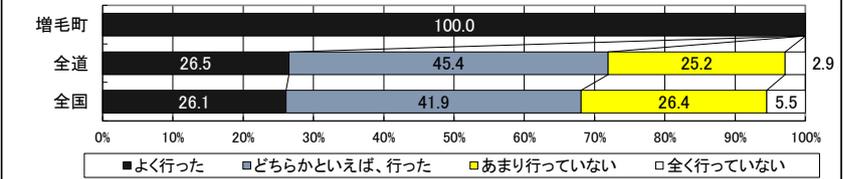
【生徒質問紙調査】

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う

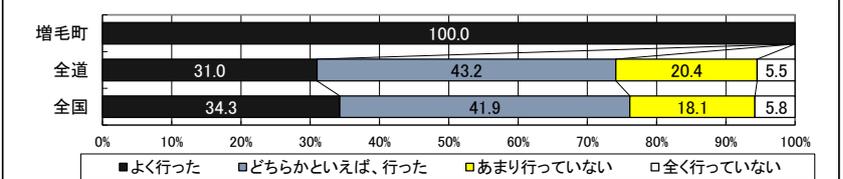


【学校質問紙調査】

近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った



近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学では、「資料の活用」で全道を上回っている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業中や補充的な学習サポート等において、一人一人の生徒の理解度に応じた指導を充実させたことにより、学力の向上につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「小中連携教育推進委員会」等において、小・中学校が連携して教育課程を見直す取組や指導力向上に向けた取組を推進したことにより、義務教育9年間を見通した教育活動の質の向上につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。 ○ 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。 	

【増毛町の学力向上策】

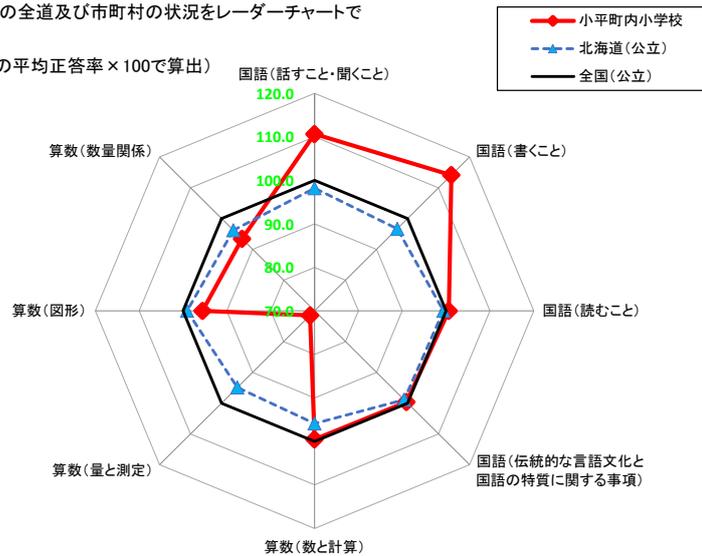
- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 「小中連携教育推進委員会」による9年間を見通した切れ目のない学校教育の充実
- ◎ 学習支援員による個別の学習支援の充実
- ◎ 保護者との協力による「家庭学習の手引き」等を活用した家庭における学習習慣の確立

■小平町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:15人)

【教科全体の状況】

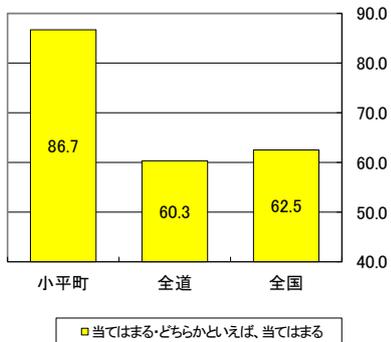
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



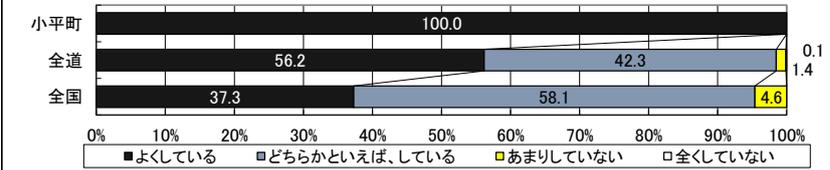
【児童質問紙調査】

授業の自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している

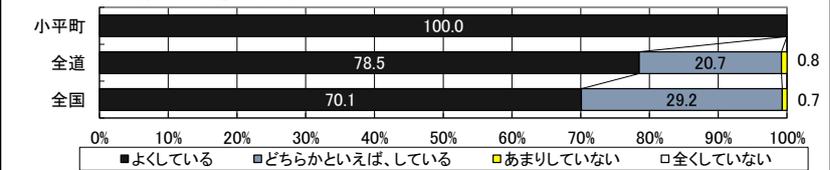


【学校質問紙調査】

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「数と計算」で全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業での話し合い活動等の充実に向けた指導方法を工夫したことにより、児童の言語能力が育成され、国語の3つの領域で全国を上回る成果につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業の自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校で、各種データ等に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、組織的、継続的な校内研修を行い、教職員の指導力向上を図ったことにより、授業改善につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答している。 ○ 全ての学校が、「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている」と回答している。 	

【小平町の学力向上策】

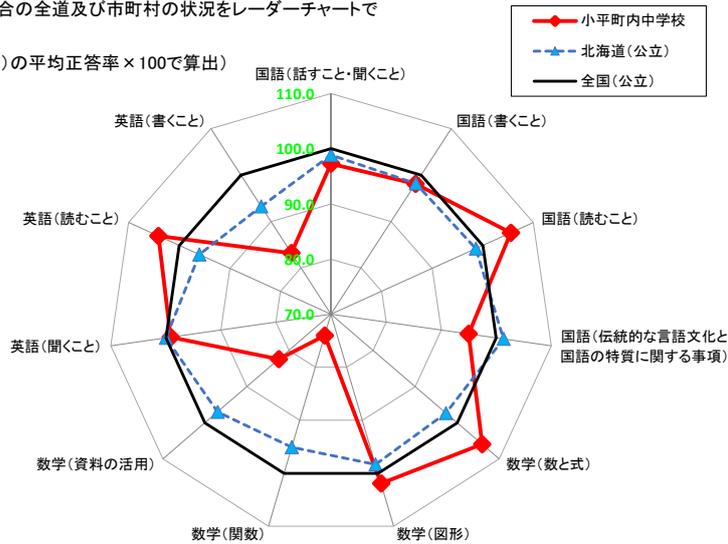
- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業や主体的な学びの実現に向けたICT機器の計画的な整備
- ◎ 家庭との連携による学習習慣の確立に向けた取組の推進
- ◎ ブックフェスティバルや読書感想文コンクールの実施など、読書に親しむ環境づくりの推進

■小平町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:21人)

【教科全体の状況】

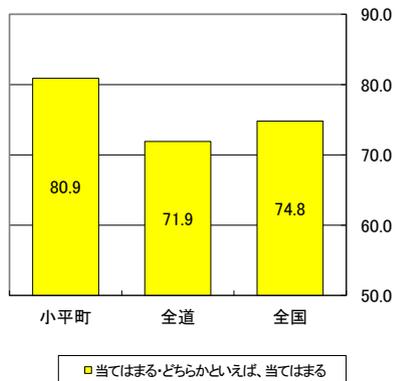
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



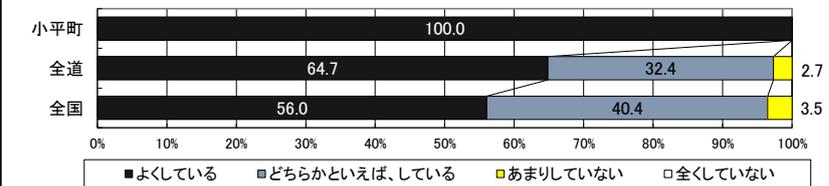
【生徒質問紙調査】

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

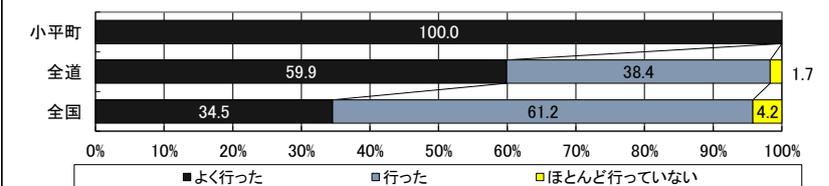


【学校質問紙調査】

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「図形」で全国を上回っている。 ○ 英語では、「読むこと」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において、生徒の興味や関心を高めたり、生徒が課題意識をもって学習に取り組むための指導方法の工夫を行ったことにより、課題解決能力が育成され、国語、数学、英語の4つの領域で全国を上回る成果につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自校の課題解決に向けた実践的な研修を実施するとともに、調査結果を学校全体の教育活動の改善に活用するなど、組織的な取組を充実したことにより、学校全体で教育活動の質の向上につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている。 ○ 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。 	

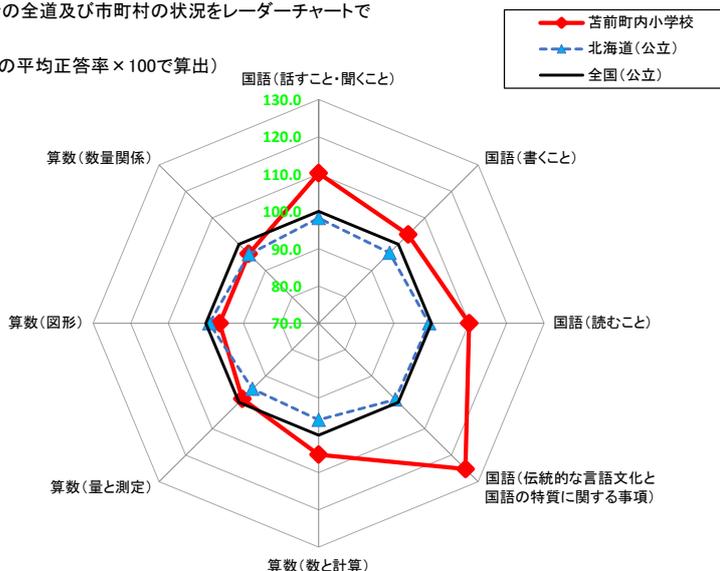
【小平町の学力向上策】

- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業や主体的な学びの実現に向けたICT機器の計画的な整備
- ◎ 家庭との連携による学習習慣の確立に向けた取組の推進
- ◎ ブックフェスティバルや読書感想文コンクールの実施など、読書に親しむ環境づくりの推進

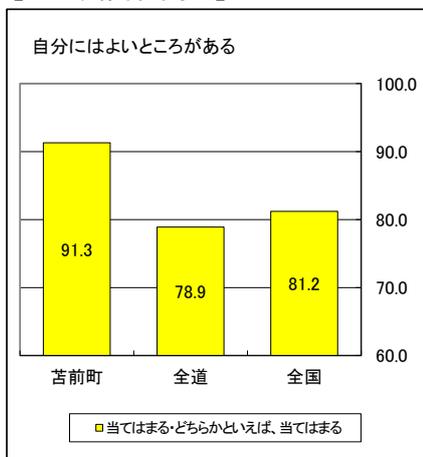
■ 苫前町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:23人)

【教科全体の状況】

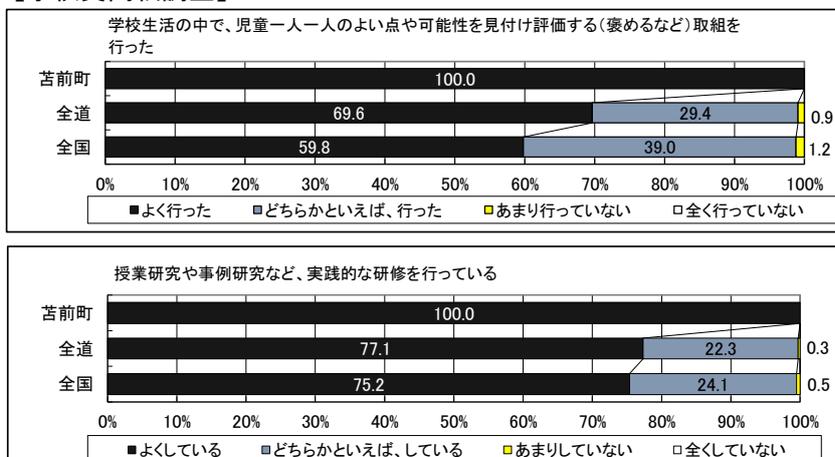
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「数と計算」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりを行ったことにより、児童が自信をもって学習に取り組むとともに、学習の成果を実感できるようになり、学力の向上につながったと考えられる。 ○ 全ての学校で、「授業改善推進チーム活用事業」等を活用して校内研修を組織的に推進したことにより、教職員の指導力が向上し、授業改善につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、「学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った」と回答している。 ○ 全ての学校が、「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答している。 	

【苫前町の学力向上策】

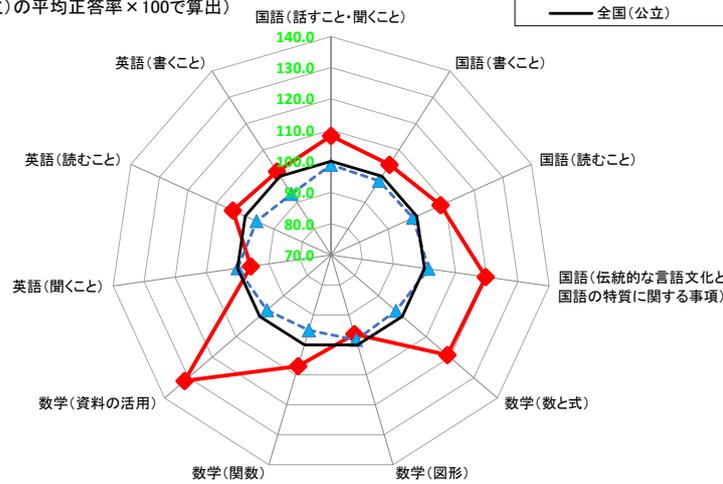
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析を基にした学力向上策の改善・充実
- ◎ 「授業改善推進チーム活用事業」による教職員の指導力向上の取組の推進
- ◎ T・Tによる指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 児童生徒の学力向上や家庭学習の定着に向けた「子ども朝活事業」の実施

■ 苫前町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:29人)

【教科全体の状況】

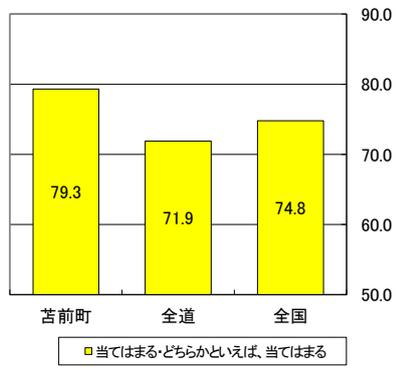
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



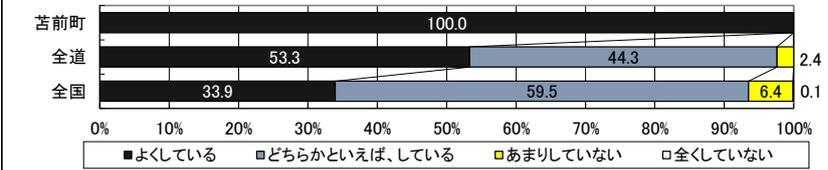
【生徒質問紙調査】

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

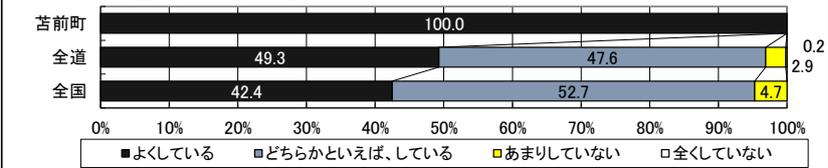


【学校質問紙調査】

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「関数」「資料の活用」で全国を上回っている。 ○ 英語では、「読むこと」「書くこと」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において、生徒の興味や関心を高めたり、生徒が課題意識をもって学習に取り組んだりするための指導方法を工夫したことにより、課題解決能力が育成され、国語や数学、英語の9つの領域で全国を上回る成果につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校で、各種データ等に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、各教科等の特質に応じた言語能力の育成を図る指導計画の工夫を行ったことにより、質の高い教育活動の展開につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答している。 ○ 全ての学校が、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答している。 	

【苫前町の学力向上策】

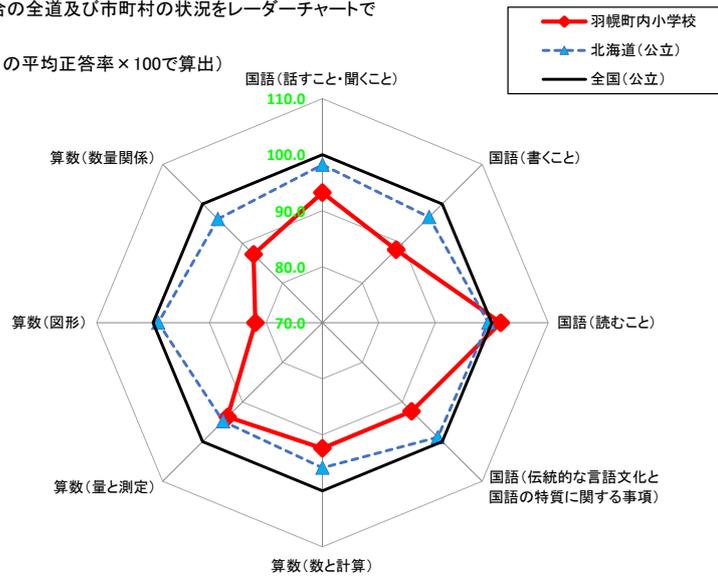
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析を基にした学力向上策の改善・充実
- ◎ 各学校や町教育研究協議会における教職員の指導力向上に向けた取組の支援
- ◎ T・Tによる指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 英語力の向上と学習意欲の向上を図るため、英語検定の受検料の補助

■羽幌町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:47人)

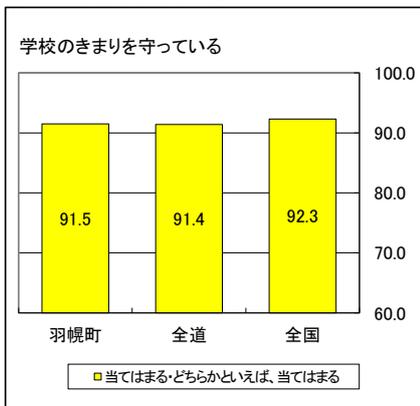
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

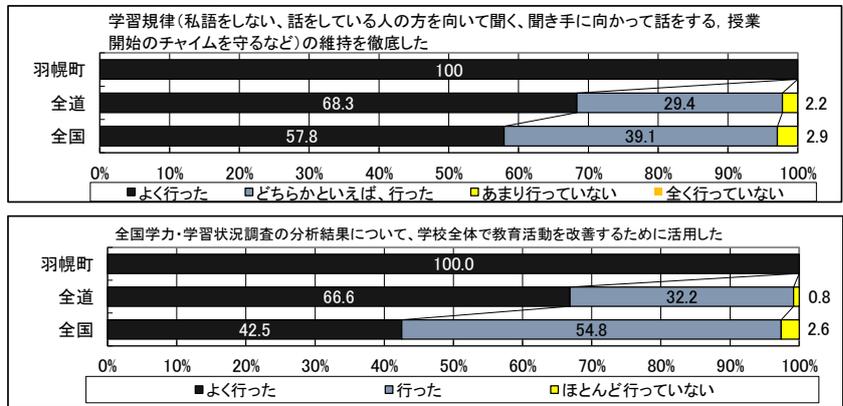
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「量と測定」が全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校で、学習規律の確立に向けた取組を推進したことにより、児童が落ち着いて学習に向かう環境が整えられ、学力の向上につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合が、全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査の分析結果に基づき、組織的・計画的に指導計画や指導方法を改善したことにより、教育活動の質が向上したと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が「学習規律の維持を徹底している。」と回答している。 ○ 全ての学校が、「全国学力・学習状況調査の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した。」と回答している。 	

【羽幌町の学力向上策】

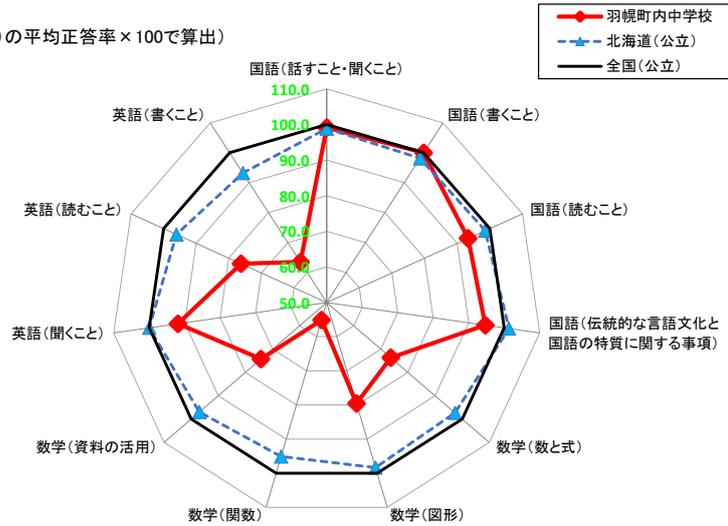
- ◎ 習熟度別指導など個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 情報通信機器を有効活用した学習指導の推進
- ◎ 司書教諭派遣による学校図書館の環境整備や図書の充実
- ◎ 教育支援員の配置

■羽幌町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:46人)

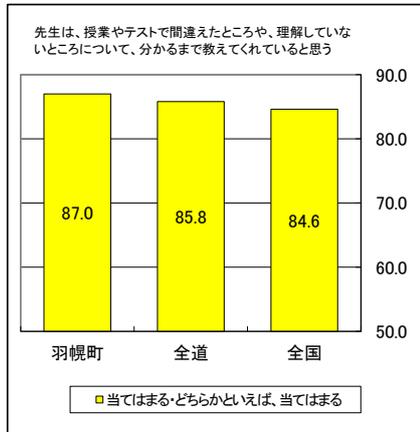
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

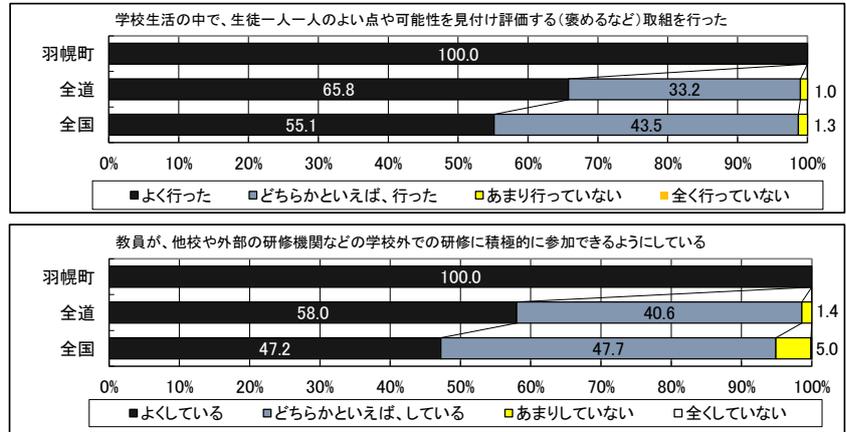
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」で全国と同様になっている。 ○ 数学では、「図形」で全国に最も近づいている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の実態に応じ、生徒のよさを生かす指導や、習熟度別指導などによるきめ細かな指導の充実を図ったことにより、成果につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員が校外研修に積極的に参加できる体制づくりや近隣の小学校や高等学校との合同研修等を組織的・計画的に行ったことにより、教職員の指導力向上が図られ、授業改善につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った。 ○ 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている。 	

【羽幌町の学力向上策】

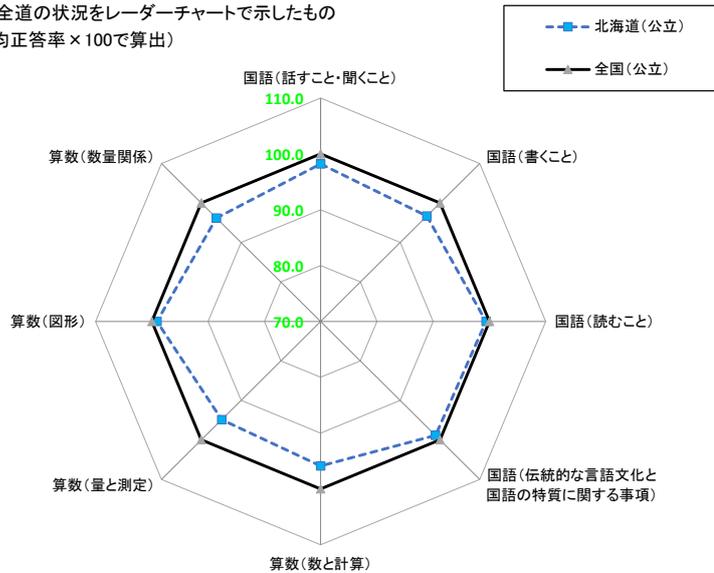
- ◎ 習熟度別指導など個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 情報通信機器を有効活用した学習指導の推進
- ◎ 司書教諭派遣による学校図書館の環境整備や図書の充実
- ◎ 教育支援員の配置

■初山別村内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、児童数:10人)

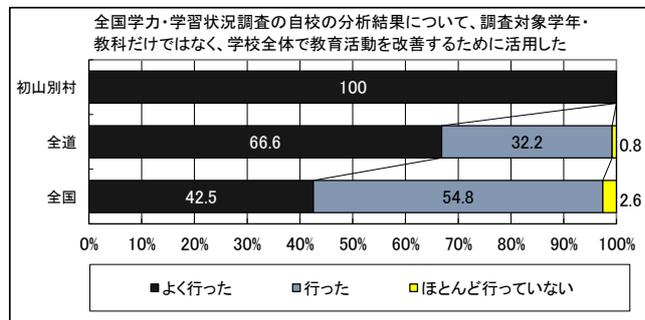
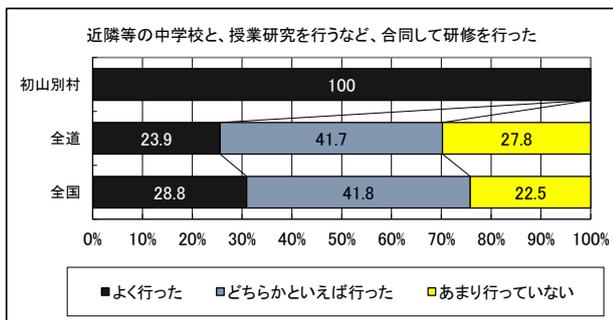
※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の教科及び児童質問紙のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道の状況をレーダーチャートで示したもの
(全道の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	※ 児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の教科のデータは掲載していない。	
児童質問紙	※ 児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の児童質問紙のデータは掲載していない。	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。 ○ 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携による9年間を見通した指導計画の改善・充実を図り、近隣の中学校と合同で行う研修を実施するとともに、全国学力・学習状況調査の結果に基づき、学校全体で教育活動の改善を図ったことにより、児童の実態に応じた質の高い教育活動の展開につながったと考えられる。

【初山別村の学力向上策】

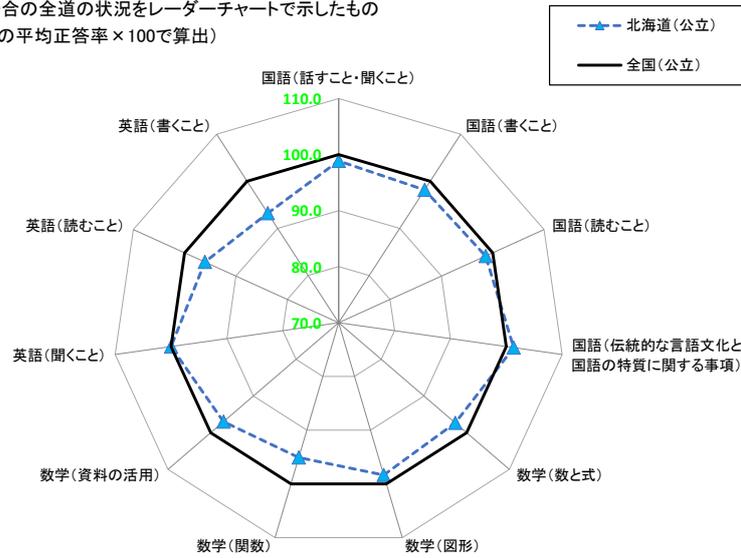
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果の分析・検証による児童の実態に応じた学習指導の改善
- ◎ 小中連携による9年間を見通した指導計画の改善・充実
- ◎ 長期休業期間における補足的な学習の支援
- ◎ 校内研修の充実及び各種研修会や研究会への参加促進

■初山別村内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:4人)

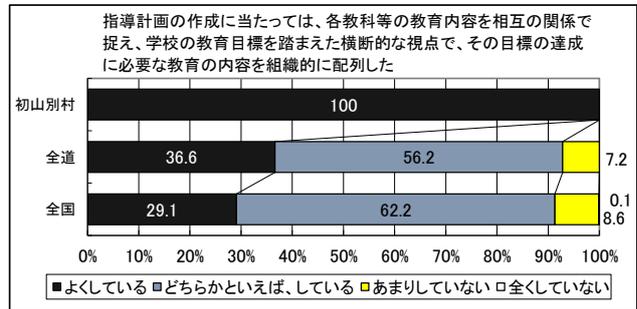
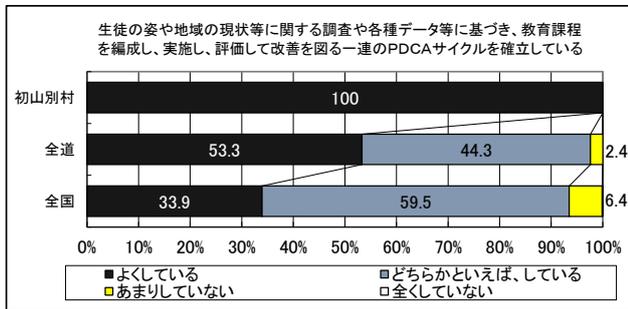
※生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の教科及び生徒質問紙のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道の状況をレーダーチャートで示したもの
(全道の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	※ 生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の教科のデータは掲載していない。	
生徒質問紙	※ 生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、初山別村の生徒質問紙のデータは掲載していない。	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。 ○ 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携による9年間を見通した指導計画の改善・充実に向けて、各種データ等に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、教科等横断的な視点で教育内容を組織的に配列し、学校全体で教育内容の充実を図ったことにより、生徒の実態に応じた質の高い教育活動の展開につながったと考えられる。

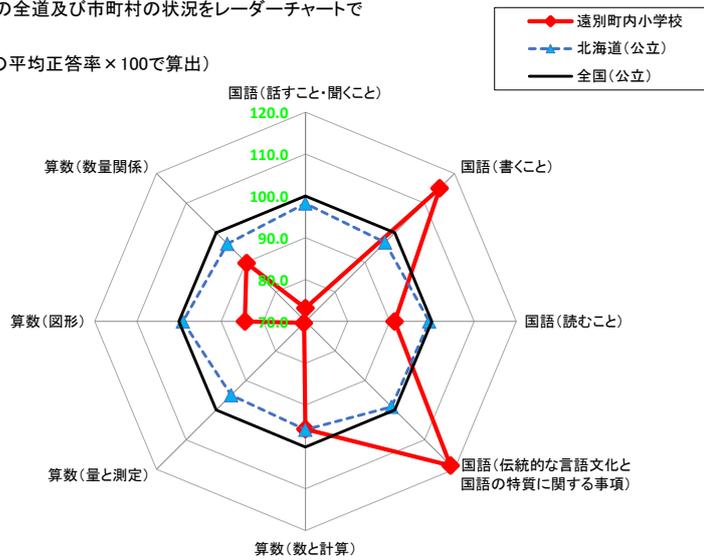
【初山別村の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果の分析・検証による児童の実態に応じた学習指導の改善
- ◎ 小中連携による9年間を見通した指導計画の改善・充実
- ◎ 長期休業期間における補足的な学習の支援
- ◎ 校内研修の充実及び各種研修会や研究会への参加促進

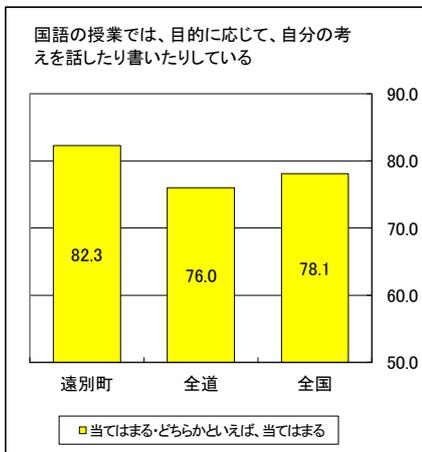
遠別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、児童数:17人)

【教科全体の状況】

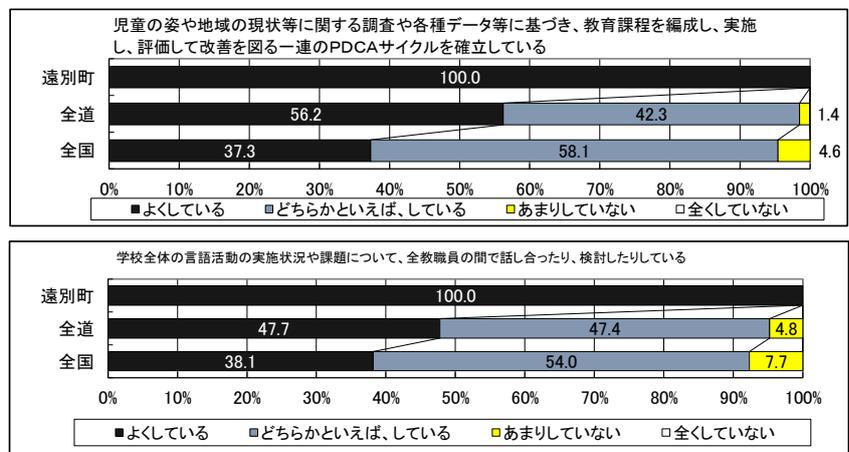
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を上回っている。 ○ 算数では、「数と計算」が全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の授業において、目的に応じて、話したり書いたりする場面を設定し、児童が自分の考えをもち、主体的に学習できるようにする学習活動を工夫したことにより、国語の2つの領域において全国を上回る成果につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答する児童の割合が全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種データ等に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、学校全体で言語活動の状況や課題について話し合い、組織的・継続的に改善を図ったことにより、言語活用能力等を育成する授業改善につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。 ○ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。 	

【遠別町の学力向上策】

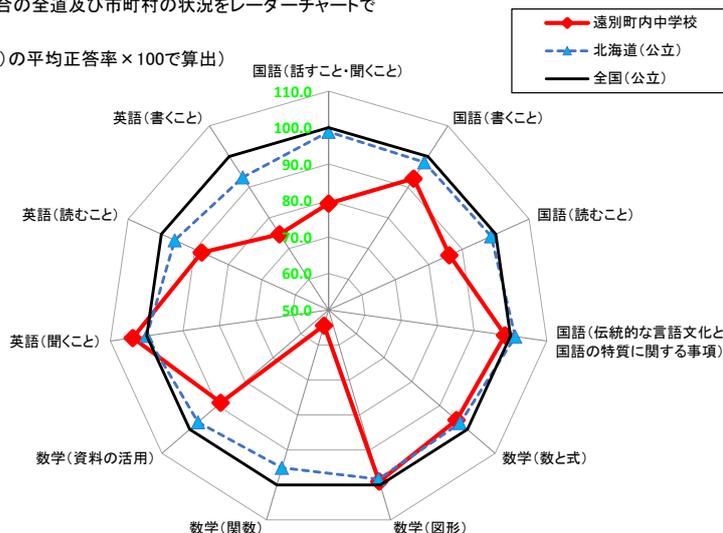
- ◎ 小・中学校合同で学校運営協議会を設置するなど、9年間を通じて児童生徒を育成する体制の構築
- ◎ T・Tによる指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の補足的な学習会の実施
- ◎ 町内外における教職員の研修機会の充実に向けた取組の支援

遠別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:15人)

【教科全体の状況】

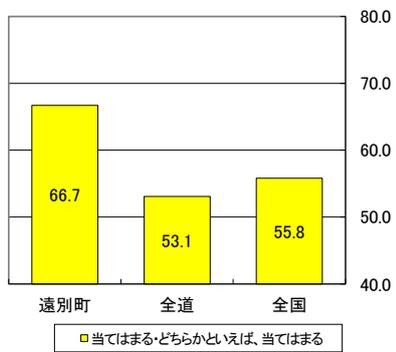
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



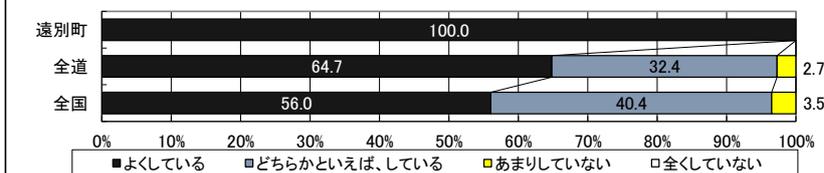
【生徒質問紙調査】

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した

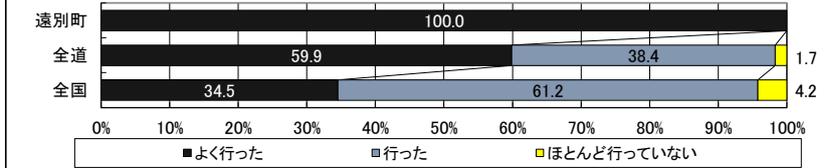


【学校質問紙調査】

授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学では、「図形」で全道を上回っている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で話し合い活動等の充実に向けた指導方法を工夫したことにより、児童の言語能力が育成され、学力の向上につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自校の課題解決に向けた実践的な研修を実施するとともに、調査結果を学校全体の教育活動の改善に活用するなど、組織的な取組を充実したことにより、教育活動の質の向上につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている。 ○ 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。 	

【遠別町の学力向上策】

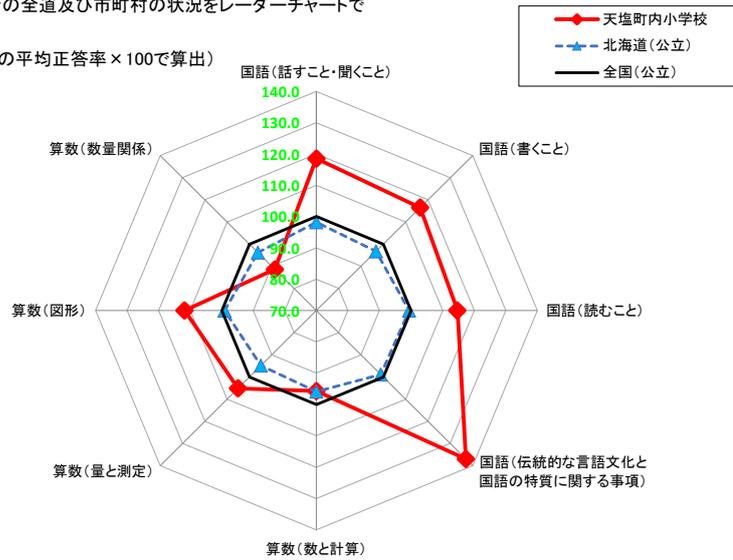
- ◎ 小・中学校合同で学校運営協議会を設置するなど、9年間を通じて児童生徒を育成する体制の構築
- ◎ T・Tによる指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の補充的な学習会の実施
- ◎ 町内外における教職員の研修機会の充実に向けた取組の支援

■天塩町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:21人)

【教科全体の状況】

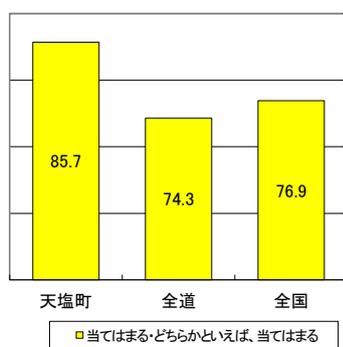
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



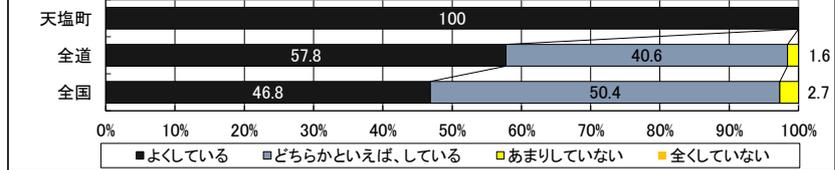
【児童質問紙調査】

国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている

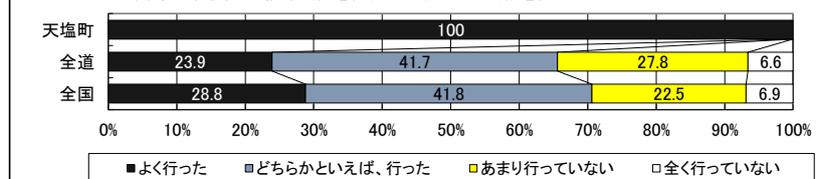


【学校質問紙調査】

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる



近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「量の測定」「図形」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学力・学習状況調査研究所」による分析をもとに、全ての教科で言語活動を充実したことにより、児童が普段の生活の中で授業で学んだことを生かそうとする態度や思考力等が育成され、国語の4領域において全国を上回ったと考えられる。 ○ 中学校の教職員との合同研修等をととして、学習内容の系統性を踏まえた指導を改善・充実をするとともに、校外内における研修の機会を充実したことにより、教職員の指導力が育成され、授業改善につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と回答した児童の割合が全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答している。 ○ 全ての学校が、「近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている」と回答している。 	

【天塩町の学力向上策】

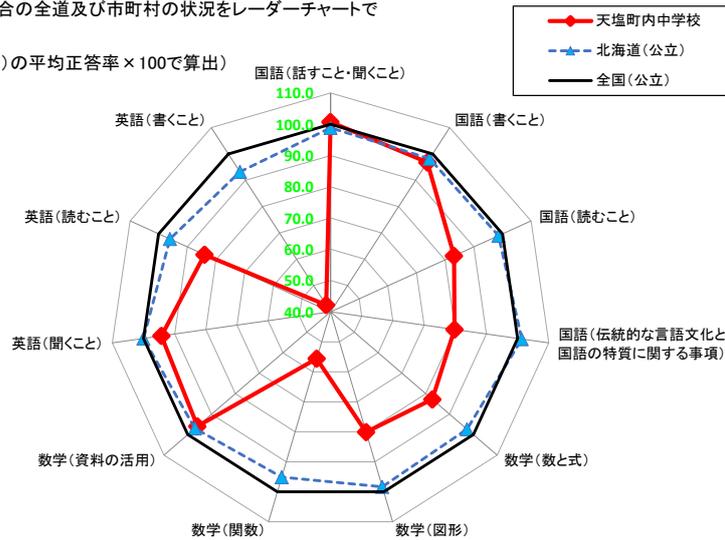
- ◎ 「学力・学習状況調査研究所」による、全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた検証改善サイクルの確立
- ◎ 教職員の資質向上に向けた、小・中・高の教職員による町教育研究協議会の充実及び各種研修会等への参加の支援
- ◎ 各学校における長期休業期間及び放課後の補足的な学習サポートの充実を図る「学習サポート教室」の実施
- ◎ 保護者と連携を図った家庭学習の充実

■天塩町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:25人)

【教科全体の状況】

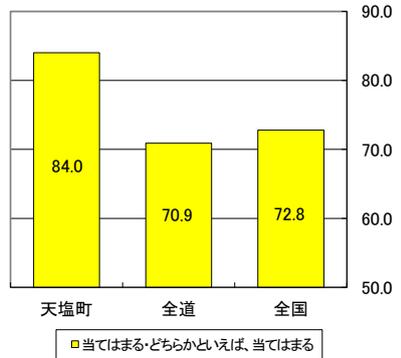
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



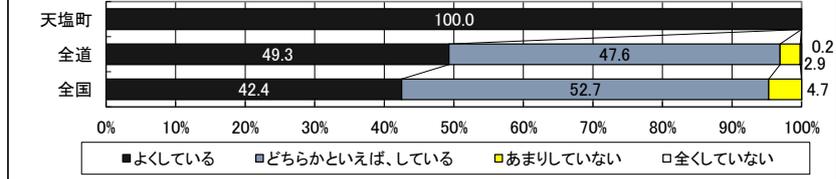
【生徒質問紙調査】

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う

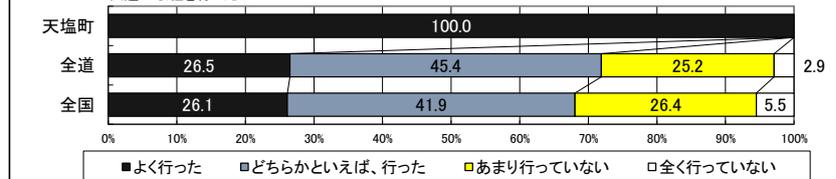


【学校質問紙調査】

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる



近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。 ○ 数学では、「資料の活用」が全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」が全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において、生徒間で話し合う活動を設定し、生徒の思考を深めたり、広げたりできるよう指導方法の工夫を行ったことにより、思考力・判断力等の育成が図られ、学力の向上につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学力・学習状況調査研究所」の分析を踏まえ、各小学校と教育課程に関する共通の取組を行ったことにより、9年間の系統性を見通した組織的・継続的な改善が図られ、質の高い教育活動の展開につながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。 ○ 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。 	

【天塩町の学力向上策】

- ◎ 「学力・学習状況調査研究所」による、全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた検証改善サイクルの確立
- ◎ 教職員の資質向上に向けた、小・中・高の教職員による町教育研究協議会の充実及び各種研修会等への参加の支援
- ◎ 各学校における長期休業期間及び放課後の補足的な学習サポートの充実を図る「学習サポート教室」の実施
- ◎ 保護者と連携を図った家庭学習の充実